

# オーストラリア海外英語研修 2018 Aussie ダイアリー

## ～関大一中生オーストラリア・ケアンズ奮闘記～

向山 七美  
中川 仁一郎

### はじめに

今年度のオーストラリア海外英語研修は、夏季休暇中の8月9日（木）から8月24日（金）まで、約2週間にわたる日程で実施され、中学3年生40名が、オーストラリアのケアンズ近郊で、ホームステイをしながら英語の研修に励みました。

特に今年度は、研修先がゴールドコーストだった時代から数えて、節目の25周年を迎え、日豪交流の記念の年となりました。セント・フランシス・ザビエル校では、アッセンブリー（全校集会）において、ガビアーニ校長先生から本校に対してご祝辞をいただきました。

幸いにもケアンズ滞在中は、天候にも恵まれ、研修中は大きな事故やケガもなく、全プログラムを無事に終えることができました。不安と期待が入り交じる中、関西国際空港を出発した生徒諸君でしたが、帰国直前には、毎年そうであるように、見送りに来てくださったバディーやホストマザーといつまでも抱き合っ、離れたくない泣きじゃくる姿に私たち引率者も胸が熱くなりました。この夏、遙か南半球の異郷の地で彼らが得たものは、言葉で表わすことができるものばかりではありません。

さて、今年度も現地での様子を、参加した生徒たちの個性あふれるコメントとともに、ほぼ毎日、本校ホームページへ掲載することができました。これら生徒諸君の「生」の声を通して、現地での生活に悪戦苦闘しながらも、オージーライフを満喫する彼らのたくましい姿を、日本のみなさんにもお伝えすることができたのではないのでしょうか。

今年度は研修の最終日に、非常に強い台風20号の接近に伴い、現地ケアンズを出発する時刻が大幅に遅れたことに合わせて、関西国際空港に着陸直前、急遽管制官から東京国際空港（羽田）への迂回命令が出されたため、羽田経由の帰路となり、帰阪が1日順延となりました。生徒諸君の安全を第一に引率をいたしました。一部、連絡体制の不備もあり、保護者に皆様方には大変なご心配とご不便をおかけいたしました。この場をお借りして、深くお詫び申し上げます。

【 2018 年度 日程表 】

日付	主な行程	宿泊先
8/9 (木)	出発式 関西国際空港 →	機内泊
8/10 (金)	ケアンズ国際空港→ マリーバ (入村式)	ファームステイ
8/11 (土)	(ファームで過ごす休日)	ファームステイ
8/12 (日)	(ファームで過ごす休日) → ケアンズ (対面式)	ホームステイ
8/13 (月)	英語研修 ESL / アクティビティ等	ホームステイ
8/14 (火)	英語研修 ESL / アクティビティ等	ホームステイ
8/15 (水)	英語研修 ESL / アクティビティ等	ホームステイ
8/16 (木)	英語研修 ESL / Japan cultural exchange	ホームステイ
8/17 (金)	英語研修 ESL / アクティビティ等	ホームステイ
8/18 (土)	(ホストファミリーと過ごす休日)	ホームステイ
8/19 (日)	(ホストファミリーと過ごす休日)	ホームステイ
8/20 (月)	英語研修 ESL / Farewell assembly	ホームステイ
8/21 (火)	アクティビティ (ミコマスケイ・クルーズ)	ホームステイ
8/22 (水)	英語研修 ESL / フェアウェル・パーティー	ホームステイ
8/23 (木)	ケアンズ国際空港→ 東京国際空港 (羽田)	機内泊
8/24 (金)	東京国際空港 (羽田) → JR 品川→ JR 新大阪駅	

それでは、上記の行程表にそって、実際に体験した生徒のコメントを掲載します。現地での生徒たち一人ひとりの奮闘ぶりをご覧いただければ幸いです。



<Aussie Diary DAY 1> Thursday, August 9th

G'day, mate! いよいよ本日からオーストラリア・ケアンズでの英語研修がスタートしました。集合時間が近づくにつれて、関西国際空港には大きなスーツケースを携えて次々に生徒たちが集まってきました。出発カウンター前で談笑する生徒たちの中には、ホストファミリーへのお土産を見せあいっこしたり、英語での挨拶の表現を確認したりする姿も見られ、微笑ましく感じられました。

また、たくさんの保護者の皆様方にもお見送りに来ていただきました。校長先生からの激励のあと、生徒たちは期待と不安の入り混じった表情で、出発ゲートからオーストラリア・ケアンズへと旅立って行きました。

【生徒たちの感想】 DAY 1

家族に見送られて今、僕たちは飛行機の中です。これから何が起こるかわからない異郷の地に行くんだと想像しただけでワクワクしてきます。現地の小学校との文化交流でソーラン節を演舞する予定なのですが、なぜか私が「センター」で踊ることになっているみたいなので、オーストラリア



に着いてからももう少し練習をしようと思います。現地でしか学べないものをしっかりと学び、大きく成長して日本に帰って来ます！（T.O）

今日から英語研修がはじまりました。最初集合したときはみんなに会えて楽しかったけど、出発の時間が近づくと緊張してきました。しかし今回の研修では友達がたくさんいるので心強いです。荷物検査と出国審査を無事に通過し飛行機に搭乗しました。

飛行機の中は思ったよりも快適でした。遠くの席の友達とタッチパネルでメールをしたり写真を撮ったりして楽しかったです。ただ唯一困ったのは全然眠れなかったことです。明日からはハードスケジュールだけど頑張っ

て乗り越えて行こうと思います。（N.Y）

はじめての海外で不安なことがたくさんありますが、これから2週間楽しみなことがいっぱいあるので、とてもわくわくしています。早くファームステイやホームステイ先の家族に会いたいです。

このオーストラリア研修のために事前準備をたくさんしてきました。その成果が出るように充実した生活を送りたいです。悔いの残らないように頑張ります。（M.A）

## <Aussie Diary DAY 2> Friday, August 10th

G'day, mate! 約7時間半のフライトの後、生徒たちを乗せた飛行機JQ16便は現地時間の午前5時19分にケアンズ国際空港に到着しました。ただ、慣れない夜間のフライトでよく眠ることができなかった生徒もいたようです。

入国審査の後、各自でスーツケースを受け取り、税関を無事に通過すると、生徒たちはいよいよオーストラリアの地にその第一歩を踏み出しました。チャーターバスに乗り込み、夜明け前のハイウェイを一路パームコーブに向かいました。途中、きれいな朝日が水平線から昇ると生徒たちから歓声が上がりました。パームコーブに到着すると朝食までの間、短いフリースタイルを取りました。生徒たちは朝日がまぶしく輝く中を思い思いに散策し、それぞれで記念撮影を楽しみました。朝食はフルーツ・プラーターとパンケーキ、ベーコン&エッグに飲み物が付きました。ほとんどの生徒が完食していました。次の目的地アサートンまでの車中1時間は「おやすみタイム」でした。

マリーバ・ヘリテージセンターに到着すると、まずファームステイの心得などの諸注意を現地のスタッフから受けました。いよいよファームステイ先の方々との対面です。緊張の面持ちで、英語であいさつや自己紹介をした後に各ファームへと出発して行きました。さて、この週末、生徒たちはファームでどのような時間を過ごしたのでしょうか。報告が楽しみです。

### 【生徒たちの感想】DAY 2

はじめはしっかりとファームステイファミリーと英語で会話できるか不安だったけど、実際はとても楽しくて、ホストマザーとファーザーも親切でとても居心地が良かったです。畑がすごく広くて、いろんな野菜を育てていて、すごいなと思いました。



日本とは全然違うことがたくさんあって、オーストラリアの文化もしっかりと学んで帰りたいです。これから約2週間、英語での会話に少しでも慣れ、たくさんの思い出を作りたいです。(S. O)

私は今日、はじめてファームステイ先の人と会いました。オーストラリアに来て、実際に使われている英語を聞いてみると、やっぱり単語しか聞き取れなかったのですが、何と言っているのかはだいたい理解できました。ファームステイ先の人たちはとても親切で、一緒にビスケットを作ったり、夕食にバーベキューをしたりして私たちの相手をしてくれました。また子どもたちも私たちと一緒に遊んでくれたりして、ファームでの2日間はとても楽しい時間を過ごすことができました。(H. K)

今日は待ちに待ったオーストラリア到着の日です。無事にケアンズ国際空港に到着した後に感じたことは日本より自然が多く、道路に信号が少ないことでした。朝日がキラキラ輝いて気持ちよく、今の日本とは全く違う涼しい気候で、暑がりの僕にはピッタリでした。

パームコームの絶景を見た後はいよいよ緊張のファームステイです。うまく馴染めるか心配でしたが、意外とジェスチャーや片言の英語で乗り切れそうです(笑)これからもこの調子で頑張っていこうと思います。(T. K)

### <Aussie Diary DAY 3> Saturday, August 11th

G'day, mate! この週末、生徒たちは3~4名のグループに分かれて、アサートン高原周辺でファームステイを楽しんでいます。生徒たちの感想が届きましたので紹介します。どの生徒もそれぞれのファームで家族や動物たちから大歓迎されたようです!

#### 【生徒たちの感想】DAY 3

今日、私は午前中にショッピングと観光をしました。街中まで移動して行った店ではとても可愛いものがたくさん並んでいて、思わずカメラで写真を撮ってしまいました。午後はカップケーキを作ったり、敷地内の森を見て回ったりしました。

明日からはホームステイが始まりますが、外国の人々との共同生活をするとすることは難しく、また貴重でもあるので残りのオーストラリアでの生活を十分に楽しみたいと思っています。(A. K)

ファームステイの最終日、私たちはスーパーに行ってお土産を買ったり、大きな森に入ったり、牛を触ったりととても充実した一日を過ごしました。また日本にはないような種類のフルーツもたくさん食べることができました。

今日で泊まるのが最後で寂しい限りですが、明日からのホームステイでもたくさん英語を話して頑張りたいです。また現地の小学校の子どもたちとも仲良く遊びたいです。これから2週間全力で楽しみます!(L. K)

今日、ファームステイのファミリーと一緒に朝ご飯を食べたのですが、子どもたちが食べ終わってからすぐにトランポリンで思い切り遊ぶのを見て、子どもって本当に元気だなと思いました。午後からはショッピングに連れて行ってもらいました。棚に並んでいるすべてが大きかったです。



夕食はファームのおじいちゃんのバースデーパーティを近くのレストランでしました。キッズコーナーで初対面の子と仲良くなったり、ホストマザーが知らない人にケーキをあげたりとすごくフレンドリーだなと思いました。(A. K)



#### <Aussie Diary DAY 4> Sunday, August 12th

G'day, mate! ファームでの休日を過ごした生徒たちがファームファミリーに送られて、マリーバの民俗遺産センターに集まってきました。離村式では生徒代表の伊藤君が御礼のスピーチをし、全員で感謝の気持ちを込めて「旅立ちの日に」を合唱しました。



いよいよケアンズ出発の直前になると、ホストマザーに抱きついて「帰りたくないよ!」と号泣する女子生徒の姿もあちこちで見られました。「また来るからね」と最後のあいさつをして生徒たちを乗せたバスはケアンズに向かいました。約1時間のバスツアーの後、ケアンズ市内にある地域の集会所に生徒たち一行は降り立ちました。



この会場では、まず Jack さんからミコマスケイについての事前講習を受けました。生態系におけるサンゴの役割や自然保護の大切さについての興味深いお話に生徒たちも聴き入っていました。美しいミコマスケイを100倍楽しんでもらいたいという Jack さんの熱い想いが随所にあふれる約1時間のレクチャーでした。



その後、いよいよホストファミリーとの対面です。つぎつぎにホストファミリーの皆さんが登場し、紹介されるとその様子を食い入るように見つめる生徒たちの姿がありました。自分たちの名前が呼ばれると、照れくさそうに英語で挨拶しながら握手やハグを交わし、それぞれのファミリーのもとに向かっていきました。さて、今晚はホストファミリーたちとどのような時間を過ごすのでしょうか。

#### 【生徒たちの感想】 DAY 4

外国人の方と話すのははじめてだったので最初は緊張しましたが、徐々に慣れていくと少しずつ英語で話すことができました。ファームステイでは10歳の女の子と鬼ごっこをしたり、卓球をしたりしました。そして夜にはバーベキューをして楽しみました。すごく楽しかったです。それにバッファローのミルクを飲んだり、飼っている馬に餌をやったりして、なかなか日本では体験できないことを二日間でたくさんできました。オーストラリアに来られて本当によかったです。(S. K)



今日、お世話になったファームステイの家の人とお別れしました。ファームステイをした2日間、とても楽しくてどれも良い思い出になりました。ホストマザーとファーザーとお別れをしたあと、Jackさんからサンゴ礁のレクチャーをしてもらって、グレートバリアリーフに行くのがとても楽しみになりました。最後に新しいホストファミリーと対面しました。最初はやっぱり緊張したけれど、話してみると優しい方だったので安心しました。残りの11日間も頑張ろうと思います。(H. S)



今日はファームステイファミリーとの最後の日でした。私たちにとても優しくしてくださいました。英語がなかなかうまく話せなくて、それでもなんとか身振り手振りで伝えることができました。

明日からはホームステイで 12 日間もオーストラリアのホストファミリーと過ごすので、少しでも英語が上達するようにファミリーの人たちと頑張ってお話をしようと思います。(S. T)

### <Aussie Diary DAY 5> Monday, August 13th

G'day, mate! 今日も快晴の月曜日、また新たな 1 週間がはじまりました。語学学校の YouStudy 前には 7 時半ごろよりつぎつぎと生徒がホストファミリーの運転する車で到着しました。

まずはクラス分けのプレースメントテストを受けた生徒たちは、4 つのクラスに分かれてオリエンテーションを行い、その後それぞれの教室でオールイングリッシュの授業を受けました。リーセス (休憩時間) になるとホストファミリーからもたせてもらったランチボックスをあけ、生徒たちはさっそくモーニングティーを楽しんでいました。

午後からは SFX (セント・フランシス・ザビエル小学校) に移動し、小学生たちと交流を行いました。オーストラリアの国旗をプレゼントされ、生徒たちはかわいらしいバディーの子どもたちから大歓迎を受けました。その後、運動場で一緒に遊んだり、ランチを食べたり、教室で授業を受けたりし、6 時間目はアッセンブリー (全校集会) が開催され、優秀生徒やクラスの表彰のほか、私たちに対する歓迎のセレモニーもしていただきました。中でもコーラス隊による合唱は心がこもっていて素晴らしいものでした。生徒たちも大満足の日でした。次の交流は Japan cultural exchange が開催される今週木曜日です。

#### 【生徒たちの感想】 DAY 5

今日は午前中に語学学校に行って勉強しました。その後、セント・フランシス・ザビエルの小学生たちと交流しました。僕は小学 4 年生のバディーと一緒に遊びました。とても可愛い男の子や女の子がたくさんいて感動しました。

明後日も日本文化交流デイで小学生たちと会うことができるのでとても楽しみです。早く子どもたちと会いたいです。まだまだオーストラリアにいる時間はたっぷりあるので存分に楽しみたいと思います。そしてこのオーストラリアに来させてもらった両親にはとても感謝をしています。

(R.N)

今日は語学学校と小学校への初登校日でした。語学学校のプレースメントでは全て解けずに半分ぐらいまでしか問題が解けなかったです。そして 4 つのクラスに別れて、10 人ずつで授業を受けました。僕のクラスでは、英語で名前と好きなものをクラスみんなで紹介し合いました。また家具の名前や英語での自己紹介のやり方を学びました。

午後からは小学校に行き、小学生に歓迎してもらい、教室に連れて行ってもらったり、一緒に遊んだり、お昼ご飯を食べたりしました。鬼ごっこをして遊んだのですが、途中で鬼が誰かわからなくなったときに子どもたちに誰が鬼なのか教えてもらいました。

小学校には様々な国の子どもたちがいました。アジア系のハーフの子どもたちもいて、難しい英語を日本語に直してくれたりしました。次の訪問でソーラン節を披露するので子どもたちのために頑張りたいと思います。

(K. S)



今日はじめて、語学学校で英語の授業を受けました。はじめは先生の話す英語が聞き取りにくかったので、何を言っているのかさっぱりわからなかったのですが、ジェスチャーなど身振り手振りを先生がしてくださったのでそれを見て理解することができました。

午後からは地元の小学校を訪問して、4年生の子どもたちに学校を案内してもらいました。お昼休みに鬼ごっこをして遊びました。現地の子どもたちは運動神経が良くてすぐに捕まってしまいました。次は一緒にバスケットがしたいです。いろいろと大変だけど、ここでの生活はとても楽しいです。(J. N)

### <Aussie Diary DAY 6> Tuesday, August 14th

G'day, mate! 本日もここ、ケアンズは快晴です。絶好の研修日和です。いつものように午前7時30分ごろから生徒たちが元気に登校してきました。午前中はそれぞれのクラスで英語の授業を受け、午後からはTAFE（オーストラリア政府が支援する職業訓練校）に社会見学に行き、担当の方から説明を受けました。日本との職業観の違いを生徒たちは学び取ることができたと思います。

そのあとボタニカル・ガーデン（日本とは違いオーストラリア的な植物園です）で散歩をしました。明後日の交流日にSFX（セント・フランシス・ザビエル小学校）の子どもたちにも踊り方を教えるので、芝生広場で「ロックソーラン」の練習もしました。

少し時間に余裕があったので、地元のアウトレット商業施設（DFO）にも立ち寄りました。生徒たちはおのおの好きなお店でショッピングを楽しんでいるようでした。最後のミーティングで、今日がお誕生日だったKくんにサプライズでHAPPY BIRTHDAY TO YOUをみんなで唄ってお祝いしました。今日も大満足の日でした。

#### 【生徒たちの感想】DAY 6

今日のTAFE訪問で一番、私の印象に残っているのは看護コースでした。とてもリアルで充実した設備だったので、世界各国から志願する受験生の気持ちがよくわかりました。私もとても勉強したくなりました。

この研修の初日は日本にいる家族が恋しくて、泣きたくなることもありましたが、今は親切でおもしろいホストファミリーのおかげでとても楽しく過ごしています。少しだけ英語の話し方がわかってきた気がします。明日からも頑張ってもっと英語が話せるようになりたいです。(M. S)

今日の授業で、僕はオーストラリアの食文化について学びました。こちらの食文化は日本とは大きく違っていました。日本ではたいてい朝はご飯とみそ汁ですが、オーストラリアではシリアルだけか、パン1枚のような軽い朝食です。夜食もサラダとチキンだけなど、あまり種類が多くありません。

午後からはTAFEとボタニカル・ガーデンに行きました。いろいろな種類の植物がありました。またその帰りにDFOという商業施設に立ち寄りしました。とても広くたくさんのお店が入っていて、そのこのスーパーマーケットには日本のインスタントラーメンも売られていました。またレジでは袋がもらえず、エコバッグをもっていかないとはいけませんでした。とてもいい一日を満喫できました。(Y. N)



今日は午前中に英語の研修をしてから、午後に職業訓練校に行って、看護師や大工さんの研修を見学してきました。オーストラリアの人々は 12 年ぐらいで仕事を変えるそうなのでびっくりしました。

その後、ボタニカル・ガーデンで色々な植物を見て、アイスクリームを食べました。最後にショッピングモールに立ち寄ったので、いろいろ買い物をしようとしたのですが、結局はチップスとジュースしか買えなかったです。

夜にホストファミリーの子どもたちとサッカーの試合を観に行っただけどめちゃくちゃ寒かったです。オーストラリアでの出来事は普段とはかけ離れていてとても疲れますが、外国人と話したり、ホストファミリーの子どもたちも遊んだりするのは良い経験になったと思います。この経験を日本に帰ってもいかせていけたらいいなと考えています。(K. N)

### <Aussie Diary DAY 7> Wednesday, August 15th

G'day, mate! 本日の早朝のケアンズのお天気は意外にも雨でした。ただ、生徒たちが登校してくる午前 7 時半を回ると小雨になってきました。午前 8 時を過ぎるとほぼ雨脚も弱まり、YouStudy の前の空には大きなダブル・レインボーが現れました。

今日の午前中はオーストラリア固有の動物やアボリジニの文化を学びました。これは今日の午後から訪れるレインフォレストーションの事前学習を兼ねています。キュランダにあるレインフォレストーションにはコアラやカンガルー・ワラビーなどの有袋類などをはじめ、ウォンバットやデヴィル、キャソワリやディンゴなど固有動物が飼育されています。またあわせてアボリジニの文化を実際に体感できるアクティビティーがあり、パマギリダンスが実演されます。

約 30 分のバスドライブの後、レインフォレストーションに到着した生徒たちはさっそく園内のコアラやカンガルー・ワラビーと一緒に記念撮影に興じました。また 2 名の生徒がステージに飛び込みでアボリジニの方の指導を受けて、独特のパマギリダンスを踊りました。そのあとは全員でブーメラン体験をしました。飛ばす角度と手首のスナップを利かせるのがうまく飛ばすコツのようです。最後に水陸両用自動車（通称アーミーダック）に乗って、公園内の熱帯雨林を観察したのですが、大きく車体が揺れたりして、そのまま湖に入っていくとみんな大はしゃぎでした。YouStudy に戻ると、地元ケアンズ・ポストの記者が取材に来ていて、全員の記念写真を撮影した後、代表生徒 2 名がインタビューを受けました。今日も盛りだくさんな一日でした。

追伸 昨日のケアンズ・ポスト新聞の取材記事が翌 16 日の朝刊に掲載されました！

#### 【生徒たちの感想】 DAY 7

今日は午前中に英語の授業を受けた後、キュランダにあるレインフォレストーションに行きました。そこではアボリジニのダンスショーを観たり、アーミーダックに乗ったり、ブーメラン投げの体験をしたり、コアラを抱っこしたりしました。その動物園ではカンガルーが放し飼いにされ



ていて驚きました。人にとっても慣れていたので触ることができました。毛がふわふわとしていてとてもかわいかったです。(Y. T)

今日の午後からはレインフォレステーションに行きました。そこでコアラを抱っこして写真を撮りました。思ったよりも毛が柔らかくてとても驚きました。

園内ではワラビーが放し飼いにされていて、人がいても物怖じせずに日向ぼっこをしていたり、寝ていたりしてとてもかわいかったです。今日でオーストラリア研修の折り返しの日になるので明日からも頑張ろうと思いました。(A. N)

今日は ESL の授業を受けた後、レインフォレステーションに行きました。ここではオーストラリアの動物たちとのふれあいやアボリジニの体験などができてとても楽しかったです。

その中でも私はコアラと一緒に写真を撮ったことが一番思い出に残りました。コアラを抱っこした瞬間にムギュッと抱きしめられて、しかもふわふわしてとても可愛かったです♡\$22 も払ったかいがありました。明日からもまた頑張りたいと思います！！(M. I)

### <Aussie Diary DAY 8> Thursday, August 16th

G'day, mate! 今日のケアンズはいつものように青空が広がる快晴です。今日は午前中の ESL でオーストラリアの地理的な特徴を学びました。そのあと、いよいよセント・フランシス・ザビエル小学校に移動して、Japan cultural exchange (文化交流デイ) を実施しました。

生徒たちも昨晩はそれぞれのホームステイ先でもう一度、おりがみの折り方やけん玉、紙芝居の読み聞かせの練習をしたようです。現地に到着後、お出迎えのバディーたちの前で学校を代表して、鴨島さんが英語でスピーチを行いました。そのあと生徒たちは各教室に入り、それぞれ紹介を受けました。前回とは学年の違うバディーが今回は担当してくれました。

13時半からいよいよ Japan cultural exchange がはじまりました。今年は小学5年生の生徒74名を対象に、Aグループ【紙芝居+おりがみ】、Bグループ【紙芝居+日本の伝統的なおもちゃ】、Cグループ【ロック・ソーラン演舞】の3つのグループに分かれて、それぞれ子どもたちと交流しました。

最初、Faithful Elephantsの紙芝居(読み聞かせ)では緊張していた生徒たちも徐々に慣れて、おりがみやおもちゃの実演では折り方や遊び方を身振り手振りも含めて、子どもたちに英語で一生懸命伝えようとしていました。またロックソーランのグループでは、生徒たちによるデモンストレーションのあと、一緒にソーランダンスを楽しみました。子どもたちも大喜びでロックソーランを踊っていました。今日の交流で使用したけん玉やおりがみなどは交流の記念に学校に贈呈しました。

#### 【生徒たちの感想】 DAY 8

今日は午前に英語の授業をした後、セント・フランシス・ザビエル小学校の子どもたちと2回目の交流を行いました。

今回の交流では日本の伝統的な遊びを小学生たちに紹介して、一緒に遊びました。私の担当はけん玉だったので、どの子どもも興味をもって楽しそうに遊んでくれたのでうれしかったです。明日もオーストラリアの小学



生との交流（授業参加）があるのですごく楽しみです。みんなフレンドリーでたくさん話しかけてくれるのでオーストラリアでの生活はとても楽しいです。両親には感謝しかありません。（K. N）

今日は午前中に語学学校で授業を受けてから、午後に地元の小学校に2度目の訪問をしました。今回は小学5年生のバディーと一緒に遊んだり、お昼ごはんを食べたりしました。そのあとは英語で紙芝居をして、現地の小学生に英語の発音を褒められてうれしかったです。

最後にめんこの遊び方を教えたときも楽しんでもらったので良かったです。明日からもまた頑張りたいです。（K. F）

私は今日、現地の小学校で日本文化の紹介をしました。私はソーラン節とおひし紙を教えました。歳も違うし、言語も違うのでとても難しく大変でした。でもみんな、私たちのことを理解してくれようとして嬉しかったです。最後にはみんなでサビの部分がある程度、踊れるようになって良かったです。帰り際、ソーラン節を教えた子どもたちにすれ違った時、「ソーラン、ソーラン」と言いながら踊るフリをしてくれて、ものすごく嬉しかったです。

夜はホストファミリーのお母さんとテレビを見ました。毎日、私はリビングにいますが、この日は特に話せたと思います！テレビの面白いシーンなどではお母さんと一緒に笑って、「おもしろいね」みたいなことを話しかけてくれて嬉しかったです。その後も笑いながら一緒にテレビを見ながら話をしました。家族になれた感じがしました。

オーストラリアでの生活も残り少なくなっていますが、これからも頑張ってお話をして、ホストファミリーと楽しい時間を過ごしたいと思っています。（A. S）

### <Aussie Diary DAY 9> Friday, August 17th

G'day, mate! 今日のケアンズも雲ひとつない快晴です。午前中の ESL のあと、生徒たちは SFX（セント・フランシス・ザビエル小学校）に3回目の訪問をしました。今日もかわいいバディーたちが笑顔で迎えてくれました。すっかり顔見知りになって名前を覚えてくれている子どももたくさんいて、生徒たちもハイ・ファイブ（ハイタッチ）やハグを交わして再会を喜んでいました。それも束の間、さっそく lunch の前の play time に無邪気なバディーたちに手を引かれて運動場に連れて行かれました。とにかく子どもたちは元気いっぱい energetic boys & girls ばかりで汗だくになりながら、鬼ごっこやサッカーをして一緒に遊びました。

思いっきり遊んだ後は大きなランチボックスを開けてのランチタイム。一中生もそこら中に座りこんで、子どもたちと一緒にサンドイッチやスナックをほおばっていました。午後からはそれぞれのバディーの授業に参加して、ゲームをしたり、学校の周りのごみ拾い（これは'emu parade'と呼ばれています）をしたり、図書館で本を読んだり、子どもたちに物語を読んでもらったりと様々な授業を体験しました。

最後に子どもたちが"See you on Monday!"と笑顔で見送ってくれました。いよいよ月曜日がお別れのセレモニーです。仲良くしてくれた子どもたちのためにも精一杯、感謝の気持ちを込めて、歌や踊りのパフォーマンスができればいいですね。今日も笑顔があふれる大満足な一日でした。



## 【生徒たちの感想】 DAY 9

今日、僕はまず午前中に ESL（英語研修）を受けました。その日はオーストラリアのお金（AU ドル）の仕組みを学んだり、新しい絵柄などを描いたりして、先生とみんなで楽しみました。

午後はバスに乗って現地のセント・フランシス・ザビエル小学校に行き、校庭で遊んだり、一緒にランチを食べたりしました。そのあと、担当のバディーのクラスで授業を受けました。オーストラリアでは1日1日がとても楽しいです。（R. Y）

今日は朝から ELS の授業でした。日に日に習う内容が濃くなっています。でも先生もすごく優しく楽しいです。

午後は現地の小学生と交流しました。訪問するのは今回で3回目だったので、前にあった子どもたちから笑顔で話しかけてくれてとても嬉しかったです。授業はタブレットを使ったものでとても新鮮でした。小学2年生のバディーが担当してくれたのですが、みんな私たちに気を遣ってくれて、とても優しいなと思いました。（H. Y）

午前中は語学学校で授業を受けました。授業ではオーストラリアに生息する動物などについて学んでいます。先生の説明はとてもわかりやすく、授業がとても楽しいです。

午後は現地の小学校に行きました。私は1年生のクラスに入らせてもらいました。自分の名前を呼んでくれる子がたくさんいて嬉しかったです。縄跳びやバスケットボールをして一緒に遊びました。

オーストラリアでの滞在も残り数日となってしまったので、もっともっと楽しみたいです。（A.H）

## <Aussie Diary DAY 10> Saturday, August 18th

G'day, mate! ウィークデイの ESL や活動を終え、このウィークエンドはゆったりとした時間を楽しんでいます。生徒たちに週末の予定を聞いてみると、やはり BBQ、ショッピング、ラグーンプールや教会に行く予定ですという声が多かったように思います。

さて、この週末、生徒たちはホストファミリーとどのような時間を過ごしているのでしょうか？ 週明けの報告が楽しみです。

## 【生徒たちの感想】 DAY 10

今日、私はショッピングに行きました。ホストマザーは大きなところよと言っていましたが、オーストラリアで行ったほとんどの店に二階がないので、日本と比べるとほとんどが小さく感じました。そのかわりにスーパーマーケットがとても広くて大きいです。

お菓子の種類も多く、量も多いので食べきれません。ほとんどがセルフレジで袋もお金がかかるので最初はとても大変でした。お金もドルとセントの違いがわかりにくくて困っていましたが、最近ようやく慣れてきました。（R. O）

今日は僕のホストファミリーが忙しかったので、友だちのホストファミリーのお宅に伺いました。まず午前中にラグーンというプールに行きました。海も隣にあったので綺麗な景色を見ながらたくさん泳ぐことができました。



そして午後はケアンズセントラルでショッピングを楽しみました。あまり時間がなくすべてのお店を見て回ることができなくて残念だったけれど、オーストラリアならではのものをたくさん見ることができて、とても楽しかったです。(H. M)

今日はホストファミリーとの初めての休日でした。朝はホストファーザーにビーチに連れて行ってもらいました。昼はショッピング、夜はドライブでとてもとても充実した1日でした。

そろそろオーストラリアにも慣れてきましたが、日本のお母さんのご飯が食べたいです。でも今は、オーストラリアの文化を学びに来ているので我慢しようと思います。あと5日しかないと思うと泣きそうです。もっとホストファミリーと仲良くなれるよう頑張ります。それから英語の勉強ももっと頑張ります。(T. I)

### <Aussie Diary DAY 11> Sunday, August 19th

G'day, mate! ウィークデイの ESL や活動を終え、このウィークエンドはゆったりとした時間を楽しんでいます。生徒たちに週末の予定を聞いてみると、やはり BBQ、ショッピング、ラグーンプールや教会に行く予定ですという声が多かったように思います。

さて、この週末、生徒たちはホストファミリーとどのような時間を過ごしているのでしょうか？週明けの報告が楽しみです。

#### 【生徒たちの感想】 DAY 11

ケアンズにホームステイに来てから一週間が経ちました。こちらでの生活にもようやく慣れてきました。今日は早く起きて、図書館やビーチに連れて行ってもらいました。

図書館は美術館みたいでとても綺麗でした。いろいろな本があって読みたかったのですが、英語で書いてあるのでまったくわかりませんでした。海は蒼く、ビーチはとても綺麗でした。残念ながら、泳ぐことはできませんでしたが、よい思い出になったと思います。(M. A)

今日は午前中に地元のショッピングセンターに行き、午後はホストマザーのお友達の家に遊びに行きました。ショッピングセンターではお店を見て回ったり、お土産を買ったりしました。最近やっとオーストラリアのお金を理解して自分で払えるようになりました。

午後に訪問したお友達の家では犬が赤ちゃんを産んだらしく、たくさんの子犬がいてとても癒されました。その家には6人姉妹もいて、私たちにたくさん話しかけてくれました。少しずつ英語で会話ができるようになって嬉しいです。(Y. I)

オーストラリアにいられるのも残り数日となり、今日がホストファミリーと過ごす最後の週末となりました。

今日は Rusty's という大きなショッピングモールに連れて行ってもらいました。そのショッピングモールの中で自由に行動していいよと言われ、最初は戸惑いましたが、自分の行きたいところをゆっくりと見て回ることができてよかったです。とても充実した日曜日でした。(M. S)



## <Aussie Diary DAY 12> Monday, August 20th

G'day, mate! 今日のケアンズも快晴です。YouStudy には週末にホストファミリーと楽しい時を過ごした生徒たちがつぎつぎに登校してきました。生徒たちのダイアリーには週末の楽しい思い出がたくさん記されていました。ただ、時間が経つのは早いもので、今日で ELS の授業も終わり、Wendy, Joanna, Lyn, Maggie, Avril の 5 人の先生方ともお別れです。授業の最後にささやかながらメッセージカードを渡して感謝の気持ちを伝えました。

午後からは SFX (セント・フランシス・ザビエル小学校) の子どもたちに会いに行きました。いつものように play time のあと、みんなで一緒にわいわいと lunch を食べました。そのあと、それぞれのバディーの子どもたちにお土産を渡して名残を惜しみつつ、各教室でいろいろな授業を受けました。

最後に farewell assembly (お別れのセレモニー) を開催していただきました。全校児童が出迎えてくれる中、学校を代表して、松内君と中川先生が英語でスピーチをして、感謝の気持ちを伝えました。また両校の学校交流 12 周年の記念に、フォトブックや Japan cultural exchange で使用したけん玉やおり紙、日本から持参した文房具、それに日本の人気マンガの本を SFX 校長のガビアーニ先生に贈呈しました。そのあと、生徒たちは校歌と「旅立ちの日に」を全員で心を込めて合唱し、会場から大きな拍手を受けました。最後にロックソーランを全員で演舞しましたが、5th graders 代表の 6 名の子どもたちにも参加してもらいました。SFX の子どもたちも「ソーラン! ソーラン! どっこいしょ! どっこいしょ!」と大きな声で掛け声をかけてくれたのでこのパフォーマンスも大盛り上がりでした。

退場の際には 6th graders たちが 2 人一組となって私たちになんと「花道のトンネル」を作ってくれました。この演出に生徒たちも大感激していました。お世話になったバディーたちに日本からの手土産を渡して、SFX を後にしました。いつまでも別れを惜しんで手を振ってくれるバディーたちの姿が印象的でした。

### 【生徒たちの感想】 DAY 12

今日はオーストラリアでの最後の英語の授業。先生たちとお別れで少しさびしかったけれど、たくさんいろんなことを教えていただいた Avril 先生には本当に感謝しています。

また現地の小学校の子どもたちとの交流は、これまでの 4 日間すべてが楽しくて、たくさんのおい思い出を作れてよかったです。お別れのセレモニーでロックソーランを披露するのは少し恥ずかしかったけれど、小学生も一生懸命に踊ったり、見たりしてくれてよかったです。セレモニーの最後に小学生の子どもたちが私たちのためにみんなでアーチを作ってくれて、握手をしたり、ハイ・ファイブをしたりしてすごく楽しかったです。

子どもたちとバイバイするのは悲しいですが、交流で得たたくさんの思い出を帰国して家族に話そうと思います。(O. S)

今日は最後の ESL の授業がありました。セント・フランシス・ザビエルの小学生とも最後の交流日です。ケアンズでの生活も残り日数が少なくなってきた、本当にさびしいなあと感じています。



最後の英語の授業では、僕のクラスは英語を他の単語で置き換えて伝えるゲームや同じ頭文字で文を作るゲーム、そして姿勢を英語で伝えるゲームをして楽しみました。

またセント・フランシスの小学生との交流では、お別れのセレモニーがあり、僕たちは『旅立ちの日に』とソーラン節を披露しました。途中で僕は少し失敗してしまったのですが、思い切りやり切れて良かったです。今は逆ホームシックな状態なので、オーストラリアでまだまだたくさんの思い出を作ってから日本に帰りたと思います。(Z. T)

今日は語学学校の最後の ESL でした。みんなでクックバラの歌を唄ったのが良かったです。そして現地の小学校に行くのも今日が最後でした。とても温かく迎え入れてくれたので、子どもたちとお別れするのがとてもさびしかったです。

オーストラリアに来てセント・フランシス・ザビエルのみんなと会えて本当に良かったです。あいにく仲のよかった子が今日は風邪でお休みだったので残念でした。研修も終わりに近づき、どんどんみんなとお別れすることが多くなってきていて悲しいです。まだ日本には帰りたくないです。(R. B)

### <Aussie Diary DAY 13> Tuesday, August 21st

G'day, mate! 今朝のケアンズも晴れ。やや肌寒い朝となりましたが、ラグーンのキオスク前には短パンに T シャツ、ビーサン姿の生徒たちがつぎつぎとやって来ました。生徒たち 40 名を乗せた OCEAN SPIRIT 号は予定通り、午前 8 時半にミコマスケイに向けて出航しました。さて、今日はどんな一日になったのでしょうか。

モーニングティーのサービスが終わると、さっそくデッキに出て、生徒たちは青い海と空をバックに思い思いに写真を撮りはじめました。約 2 時間のクルーズの後、世界遺産ミコマスケイに到着しました。と言っても、クルーズ船からさらに小型ボートに乗り換えて、いよいよ海鳥の楽園「砂洲」に上陸です。シュノーケリングで色鮮やかなサンゴや熱帯魚を観察したり、Semi sub (半潜水艦) での遊覧を楽しんだり、さらさらの白い砂地でビーチフラッグに興じたり、クルーズ船での豪華なランチをほおぼったりとそれぞれが自由にミコマスケイでの半日を楽しみました。

帰りのクルーズでは、アフタヌーンティーのあと、はしゃぎすぎて少し疲れたのか、前方のデッキで風にあたりながらのお昼寝タイムとなりました。今日のミコマスケイ・クルーズでひとつだけ残念だったのは、海上の風が強く、船が揺れてしまったことと体感温度が低かったことです。それでも生徒たちにとっては思い出に残る「最高のクルージングデイ」となりました。

#### 【生徒たちの感想】 DAY 13

今日、私たちは世界遺産のグレートバリアリーフにあるミコマスケイに行ってきました。私は魚を間近で見るのが苦手なのでとても不安でしたが、せっかくなので写真も撮りたいし、シュノーケリングで海に入ろうと決めました。思っていたよりも浅瀬にたくさんの魚がいて、驚きました。



泣きそうになりながらすぐに陸に上がりました。しかし友だちはみんなきれいな海で泳いでいたので私はビーチで写真を撮っていました。

その後、友だちが帰ってきたので、砂浜で棒倒しをしたりして遊びました。そして、船に戻り、ランチを食べました。帰りの船はみんな疲れたのでほとんどの人が寝ていました。今日もとても充実した楽しい一日でした。(C. B)

今日はグレートバリアリーフの中にあるミコマスケイという場所に行ってきました。そこはとても綺麗なサンゴとたくさんの魚、それに人間の手の入っていない鳥だけの島で、とても印象的でした。

今日、私たちが行った島も、Jackさんに習ったように、いつの日か草木が茂る大自然に変わっていくんだと考えるととても感動しました。この島が将来、草木が生い茂る島に変わった時にもこの島周辺のサンゴが今と変わらず美しいままであればいいなと思います。(A. F)

今日、私たちはミコマスケイツアーに参加しました。約2時間のクルージングの移動はとても疲れましたが、その後に私たちを待っていた「絶景」にたまっていた疲れも吹っ飛びました！

海鳥しかいない砂の島で、少し寒かったですが、友だちと楽しく活動することができました。綺麗なエメラルドグリーンの中は小さな魚がたくさんいてとても可愛かったです。また帰り際に小さなサメを見ることができました。日本ではできない貴重な体験ができて本当によかったと思います。(A. K)



### <Aussie Diary DAY 14> Wednesday, August 22nd

G'day, mate! オーストラリア・ケアンズでの生活もあと二日となりました。午前中の ESL はジャニン先生の特別講座です。まずはこの語学研修で習ったことを確認する「20 問クイズ」が実施されました。中には難問！？もいくつか入っていましたが、この YouStudy やホームステイ先で習ったことばかりです。成績優秀者には優秀賞が与えられます。さて、どの生徒の頭上に栄冠は輝くのでしょうか。今夜の farewell party で発表されます。

そのあと thanks letter の書き方を教わりました。生徒たち一人ひとりが辞書と格闘しながら、日本の家族やお世話になったホストファミリーの方々に、感謝の気持ちを込めて、英語で手紙を書きました。

午後からはお待ちかねのフリータイムです。Farewell party までの約3時間、生徒たちはおみやげを求めてあちこちのお店を駆け回っていました。集合時間になると、おみやげの大きな袋を抱えてパーティー会場に生徒たちがつぎつぎに戻ってきました。パーティーの前に毎年恒例の「キャリアガイダンス」が開かれ、ケアンズ在住の日本人4名の方から、なぜ自分はこちらに永住することになったのか、そしてどのようにして英語を習得したのかという体験談をお聞きしました。生徒たちも熱心に聞き入っていました。

午後6時前にホストファミリーがお仕事を終えて会場に到着し始めると、生徒たちがエスコートしてテーブルに案内しました。現地コーディネーターのジャニンさんの司会進行で、全員でクラッカーを鳴らしてフェアウェル・パーティーがはじまりました。まずは学校を代表して、向山先生が御礼のスピーチを英語でされました。そのあと生徒全員に英語研修



の certificate (修了証) の授与式が行われ、セント・フランシス・ザビエルのガビアーニ校長先生、YouStudy のホスキンス校長先生、ウェンディー先生、マギー先生、ジャニーソンさんからそれぞれ修了証書を受け取った生徒たちはどことなく誇らしげに見えました。生徒を代表して、塚田くん、桑原さん、福井さんが英語でスピーチを行い、御礼の言葉を伝えると、会場から大きな拍手を受けました。

つづいて「ロックソーラン」の演舞を披露し、英語で「クックバラ・ソング」と「旅立ちの日に」を全員で合唱してホストファミリーに感謝の気持ちを伝えました。生徒たちは口々に「日本にはまだ帰りたくないわ!」と連呼しておりました。ケアンズ最後の夜にふさわしい、すばらしいフェアウェル・パーティーでした。生徒たちはホストファミリーと最後の夜を過ごしています。明日はいよいよ帰国です。

(おまけ) この研修期間中に誕生日を迎えた T さんと K くんにはサプライズでお誕生日ケーキがふるまわれ、みんなで一緒に HAPPY BIRTHDAY TO YOU を唄ってお祝いしました。また「20 問クイズ」の最優秀賞は大月くんで、ご褒美にジャニーソンさんから記念品をもらいました。

#### 【生徒たちの感想】 DAY 14

今日の午前中、僕は語学学校に行ってジャニーソンさんから出題されたオーストラリアに関するクイズを 20 問解きました。次に日本にいる小学校の時の友達とホストファミリーにあてて英語で手紙を書きました。

午後からは各グループに分かれて、ショッピングを楽しみました。そして夕方からはホストファミリーと一緒に Farewell Party で楽しい時間を過ごしました。そこで僕たちはソーラン節や英語の歌を披露したりして、とても盛り上がりました。

ケアンズでの 2 週間はとても短く感じました。もうホストファミリーと会えないと思うととても寂しいです。まだ日本に帰りたくありません。このケアンズにまた戻って来て、ホストファミリーに再会できることをずっと楽しみにしています。(S. I)

今日の午前中はこのオーストラリア研修で学んだことから出題される 20 問のクイズを解いたり、日本の家族やホストファミリーへの手紙を英語で書いたりしました。その後自由行動がありグループで色々なお店を歩き回りました。そしてフェアウェル・パーティーの会場で、オーストラリアで働いている日本人の方のお話を聞きました。最後にホストファミリーが集まり、中華料理を食べたり、ソーラン節を踊ったり、英語の歌を披露したりしました。

パーティーの帰りの車で息子のマイクが、僕たちがいなくなるのが寂しいと泣いてくれてとても感動しました。いよいよ明日、日本に帰国しますが、明日が来てほしくないと思いました。(T. M)

今日はホストファミリーと一緒に過ごす最後の日でした。フェアウェル・パーティーではホストファミリーとたくさん話をしながらご飯を食べました。オーストラリアに来たばかりの頃はまったく聞き取れなかった英語が今ではだんだん聞き取れるようになりました。ホストファミリーに英語の手紙を渡すととても喜んでくれて嬉しかったです。

オーストラリアに来て新しい発見や自分のためになることがたくさんありました。オーストラリアに来て本当に良かったです！(S. T)



## <Aussie Diary DAY 15> Thursday, August 23rd

G'day, mate! このオーストラリア・ケアンズでの研修もいよいよ今日が最終日となりました。今日もケアンズは朝から透き通るような青空が広がる快晴です。集合場所の OK ショップ前には大きなスーツケースを押しながら、おみやげでパンパンにふくらんだリュックを背負った生徒たちが集まってきました。

毎年の光景ですが、オーストラリアでできた新しい家族との別れを惜しむ姿があちこちに見られました。いつまでもホストマザーやファーザーとハグをして離れない光景はいつ見ても私たちの胸を打ちます。

さあ、ケアンズの町ともお別れです。生徒たちを乗せたバスは午前 9 時半に空港に向けて出発しました。しかし、空港到着後、台風の影響で 4 時間の延着が見込まれるとの情報が…。チェックインのあと出国手続きを終え、現在生徒たちは空港ラウンジ内でフライト予定時刻までの間、ランチをとったり、トランプに興じたり、日本から持参した宿題をしたり、デジカメに撮り溜めた画像を見せ合いっこしたり、お昼寝をしたりとそれぞれのスタイルで自由な時間を過ごしています。

全員元気です！日本のみなさま、どうぞご安心ください。

### 【生徒たちの感想】 DAY 15

今日、ホームステイ先のみんなどお別れをしてから、バスに乗って空港に向かったのですが、日本に台風が接近してなかなか出発できませんでした。ただ、これまでの 2 週間を振り返ると、ここで過ごした時間はとても充実した日々でした。

このオーストラリアでファームステイやホームステイができて本当によい経験になったと思います。英語のリスニングも少し上達した気がします。これまで僕をサポートしてくれたすべての人たちに感謝したいと思います。(R. N)

今日で日本を出発してから 15 日目、つまりこの研修の最終日です。この日がうれしいのかさびしいのかわかんなくなってきました。日本を離れた日がつい昨日のようになのに、なぜか懐かしく感じられます。

最初のうちはこの研修に行きたい気持ちでいっぱいでしたが、出発が近づくにつれて不安な気持ちが強くなってきました。現地で英語が通じなかったらどうしようと不安に思っていたのですが、ホームステイ先では思っていたよりも簡単な英語で話しかけてくれたので大丈夫でした。この研修に参加して本当によかったと思います。(H. M)

ついに来てほしくない日が来てしまいました。今日でオーストラリアともお別れです。ファームステイで新鮮な野菜や果物で作ったおいしいご飯が食べられたこと、ESL で毎日英語が大変だったけど、楽しく授業が受けられたこと、現地小学校の子どもたちと交流したこと、コアラを抱っこしたり、いろいろな動物と触れ合えたこと、週末、ホストファミリーにいろいろなところに連れて行ってもらったこと、ミコマスケイで綺麗な海やサンゴを見れたこと... オーストラリアでみんなと過ごしたこの 2 週間の思い出は一生忘れません。貴重な体験を本当にありがとうございました。

(S. U)



## 帰国してわかったこと・見たものーわが心のオーストラリア体験記(一部抜粋)

### 【私がこの研修で学んだこと】

私はこのオーストラリア海外英語研修で様々なことを学ぶことができました。一番印象に残っているのは、ホームステイです。最初ホストファミリーと会った時は嬉しさと不安が入り混じった複雑な心境でした。でもホストファミリーが優しく話しかけてくれたので、緊張が解けました。子どもたちともすぐに仲良くなれて、毎日、あっという間に楽しい時間は過ぎていきました。

毎朝、ホストファーザーがランチを作ってくれて、私たちを学校まで送ってくれました。学校に行っても早く帰ってホストファミリーに会いたいという気持ちでうずうずしていました。

休日は家のプールに入ったり、ナイトマーケットでお買い物をしたりして過ごしました。夜はみんなテレビを見るのが日課でした。先生から「英語がうまく話せなくてもホストファミリーと同じ空間にいることが大事だよ」とアドバイスされ、そのことを心がけながら、毎晩、積極的に英語で話しかけるようにしました。

ホストファミリーとのお別れの日、とてもさびしい気持ちになりました。しかしこの研修で本当に貴重な経験ができたし、よい思い出を作ることができました。お世話になったホストファミリーや家族、そして先生方には本当に感謝しています。(S. U)

### 【もうひとつの家族】

私がオーストラリアの研修で一番印象に残っているのは、ホームステイでホストファミリーたちと過ごしたことです。最初はどんな人かなとすごく不安だったけれど、会った瞬間からまるで知り合いだったかのように私たちにフレンドリーに話しかけてくれました。私がゆっくりと英語で話しても、最後まで笑顔で聞いてくれました。おかげで、日に日に言いたいことをどのようにして伝えればいいのかわかるようになってきました。またお風呂上がりに皆でアイスを買に行っていたことがありました。その時は何もかもが必死で余裕があまりなかったけれど、今思えば本当に幸せな時間だったなと懐かしく思い出します。

たくさん間違えて、ホストファミリーに迷惑をかけたからこそもっともっと英語のコミュニケーション力を上げたいと思います。1月にホストファミリーが大阪に旅行に来るそうなので、今度会った時にはひと回りもふた回りも上手に英語が話せるように、これからは今まで以上に日々の英語の勉強を積み重ねて頑張っていこうと思っています。(M. S)

### 【家族の大切さ】

僕はこのオーストラリアの研修に参加して、特に人との「つながり」の大切さを痛感しました。例えば、ホストファミリーと心を通わせるためにどのようなことをすればいいのか、また日本の家族と離れたことにより、家族の大切さについて、研修中、終始考えさせられました。

ホストファミリーとはお互い緊張して、最初のうちはあまり話をする事ができませんでした。しかし、日本文化について話してみたり、カードゲームをしてみたりと、どのようにすれば家族の一員になれるのかを考えながら、少しずつ距離を縮めることができました。また近所の人ともバスケットボールをして積極的に交流をしてみたり、現地の小学生と一緒に授業を受けてみて、たくさんの人々と楽しい時間を共有することができたと思います。人との繋がりは万国共通で大切なものだを再認識できました。人との絆を深めるためにはどのようにすればいいのか、普段はあまり考える機会がないことですが、この研修を通して、僕なりに深く考えることができたと思います。とてもよい経験になりました。(H. M)



研修に参加した生徒一人ひとりがそれぞれに記した Aussie Diary には、オーストラリアで過ごした2週間の思い出がたくさん詰まっています。

※なお、関大一中 PTA 発行の『みちびき』(2019年3月刊行)にも今年度、この海外英語研修に参加した生徒全員分の「オーストラリア体験記」と生徒アンケートの結果等を掲載しています。あわせてご覧になってください。

### オーストラリア海外英語研修 2018 を終えて

この夏休み、関大一中の中3生40名が「日本代表」として、南半球の遙か異郷の地で、2週間を過ごしました。ある意味、それは生徒たちにとって人生ではじめての「大冒険」だったかもしれません。言葉も人種も違う家族の中で実際に暮らして、彼らは何を感じ、何を得たのでしょうか。親元や日本を離れてみてはじめて気づくことが多くあったように思います。彼らが自分の目で見、自分の手で触れ、そして自分の心で感じたことはきっと「一生の宝物」になったのではないのでしょうか。帰国からすでにずいぶんと日が経ちましたが、オーストラリアで得た様々な経験が今後の生活を送るうえで生徒たちの精神的な支柱になってくれると私たちは自負しています。また生徒諸君にはこのような「学び」の機会を与えてくださったご家族への感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

この Aussie Diary を通して、生徒たち一人ひとりが躍動し、たくましく成長していく姿を少しでもお伝えできていれば光栄です。最後になりましたが、これまでこのダイアリーをご覧いただいたすべて皆様方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 生徒のみなさんへのメッセージ

みなさん、ケアンズでの語学研修はいかがでしたか？英語が上達した人、英会話の自信がついた人、またオーストラリアに行ってホストファミリーと会いたい人も多いのではないのでしょうか。12年間続いているケアンズでの英語研修に、添乗員として私は9回同行していますが、今年の2週間はいつもと違うことがたくさんありました。



まず、真冬のオーストラリアではありますが、日中の気温は30度近くになるケアンズで、今年は例年よりも涼しく、幾分か快適に過ごしていただけたのではないかなと思います。また最初に行ったアサートン高原でのファームステイでは、いままでに見たことのないくらい素晴らしい星空を二晩ともご覧いただけたのではないのでしょうか。

そして毎朝、提出していただいたみなさんの日記は、その日にあったことや楽しかったことだけではなく、「もっと英語を頑張りたい」や「明日はもっとfamilyと話をする」など、本当に前向きな内

容ばかりで、いつもは励ましのコメントやアドバイスを書くことも多いのに、今年はBanoraのサチコさんと一緒に楽しく笑いながら読ませてもらいました。

でもやはり一番いつもと違ったのは帰国のフライトでしょうか。通常なら7時間のフライトで帰れるところなのに、まさかの羽田空港への着陸と新幹線での帰阪となり、ほぼ丸1日を要してしまいましたね。しかし、それも含めて、いろんなことがあつての英語研修だったのではないのでしょうか。ちなみに「旅行」は英語でTravelですが、もともとの語源はTravailで「苦労」とか「骨折り」と言う意味だそうですよ。

ホームステイでもなかなか最初は何を話せばいいのかわからないし、家の中でどこにいたらいいのか？これはどうすればいいのか？と苦労はたくさんあったと思います。でもたくさん苦労をしたことで最後にはファミリーとの会話も弾んで素敵な時間を過ごせるようになったのは、みなさんの努力の結果ですよ。「この研修をやり遂げた！」という自信を持ってくださいね。そしてこれからの勉強や学校生活もどうぞこの経験を活かして頑張ってください！

(添乗員 角野 美佐)



*To Dear Kansai Daigaku Daiichi Junior High School students.*

*It was wonderful to host you in Cairns last August. I loved reading your messages.*

*Thank you for your kind hospitality when I visited your school last week. Your school is magnificent.*

*I look forward to seeing you again when you visit Cairns with your family or friends.*

*Regards!*



(コーディネーター Janine Bowmaker)



オーストラリアでの約2週間の生活を終えて、みなさんは英語に対する考え方はどのように変わりましたか。確かに、現地の語学学校で英語の「学習」をしましたが、それは滞在中のほんの一部の時間に過ぎません。大半の時間において、英語は生活をしていく上でホストファミリーをはじめ、様々な人々と意思疎通をはかったり、つながりを持ったりするための「コミュニケーションツール」だったのではないのでしょうか。

これまで、みなさんにとって「英語」は、定期考査でよい成績をとらなければならない教科の1つだという認識の人が大半だったと思います。この海外英語研修を通して、英語を学ぶ目的や意義はもっと別のところにあるんだということを感じとってくれた人がひとりでもいればいいなと思っています。

今回の海外研修に参加した人の中には、英語をもっともっと勉強して、またオーストラリアに戻りたいなと思っている人がいるかもしれませんが、私もそのひとりです。現地のスタッフの方から「Australian slang」という本をプレゼントしていただいたので、オーストラリアという国や文化や言語についてももっともっと勉強して、今回の研修で出逢えた素敵な方々といつの日か再会したいです。お互いに頑張っていきましょう。

(引率教員 向山 七美)



僕たち教員にできるのは、君たちに「学び」の場を提供することだけだ。研修は「学び」の場であり、「娯楽」の場ではない。その「学び」の場で何を学ぶのかは君たち一人ひとりの気概にかかっている。それゆえ、個人差はとてつもなく大きい。願わくはあえて困難に立ち向かう人であってほしい。なぜなら困難を乗り越えるたびに、人は強くなり、優しくなれるからだ。

例年そうだが、今回の研修でもディスコミュニケーションによるトラブルはあった。しかし大切なことは、そこから何を学び取るかであり、その視点なしにオーストラリアで研修する意味なんてない。月並みな言い方だが、すべてのことには、プラスとマイナスという 2 つの側面がある。今年も、実際にトラブルに直面した生徒が自分自身でそれらを乗り越えようと努力した。だからこそ、今につながっているのだと思う。もしそうでなければ、真の意味での異文化理解などあり得ない。

今年、チーム・オージーにはさまざまな個性のメンバーが集まった。そんな一人ひとりが遥かオーストラリアの地で異文化と向き合い、慣れない環境の中で悪戦苦闘を繰り返した。しかしながら、そこには素晴らしい出会いがあり、新しい家族や友だちの支えがあった。かけがえのない時間が流れた。うれしい発見があり、悔しい涙があり、忘れられない感動があった。そんな君たちの姿を引率者として目の当たりにして、中学生ながら頼もしく感じたのは決して僕だけではなかったはずだ。どうか自分に自信をもってほしい。そして自分の持つ可能性を信じてほしい。学校で学ぶことだけがすべてではない。というのも、世界は広く、様々な価値観にあふれていることを君たちは「経験」を通して知っているからだ。

僕は今でも君たちと過ごした時間を懐かしく思うことがある。このオージーダイアリーを読み返すとき、僕はまだ君たちの楽しそうな笑い声の中に佇んでいる。

(引率教員 中川 仁一郎)

## おわりに

今年度の海外研修の実施にあたり、ご理解とご協力をいただいた保護者の皆様方にまずは心より御礼を申し上げます。学校サイドにおいても、野木万也校長・蔭地陽介教頭をはじめ、教務主任の高島先生、入試広報部主任の大西先生、そして中 3 学年団の先生方からも心強いバックアップを賜りました。そして JTB の西村さんをはじめ、多くのスタッフの皆様にもご尽力いただきました。とりわけ、添乗の角野さんには、現地校との日程調整や各種アクティビティーの実施にいたるまで、様々なサポートをしていただきました。また本校ホームページに掲載した「オーストラリア海外英語研修 2018 Aussie ダイアリー」の現地での更新に関して、図書情報部主任の今中先生や事務室松田さんにも技術指導をしていただきました。本研修の会計処理では、全般に渡り、事務室青木さんにきめ細やかに対応していただきました。チームリーダーの 3F 松内君、3C 塚田君、3A 鴨島さん、3F 桑原さんには帰国後、生徒アンケートの集計作業に協力していただきました。

この研修を支えてくださったすべての皆様方へ厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

引率教員一同



現地校 セント・フランシス・ザビエル小学校前での記念撮影  
— 澄み渡る青空の下、素晴らしい仲間たちとともに —